

ら 訪 探 歴 史 クラブ 其の31

TAHARA History Inquiry Club

歴史から防災を考える

東南海地震の警戒が叫ばれている今日、皆さんのお宅の防災対策は万全ですか？

過去に田原市を襲った地震は数多くありますが、記録によってその内容がうかがわれる代表的なものとしては、慶長地震（1605）、宝永地震（1707）、安政地震（1854）、三河地震（1945）などがあります。いずれも、この地方に甚大な被害をもたらしたとともに、様々な災害への教訓を与えました。

この中で特に被害が大きく、その

地震の惨状がわかっている宝永の地震をご紹介します。

宝永4年10月4日に起こったこの地震の様子は、野田町の庄屋の記録に次のように記されています。

地震そろそろとゆれ出し長い時間ゆれつづけ、大方やんだと思つたところ、強くゆれ地の下どんどんと鳴り、天地ざわざわとさわぎ、しばらく大きくゆれ続けた。大ゆれ中は老若問わず性なしのようであつた。淡々とした記述は、地震の惨状を生々しく伝えています。

この時の家屋の倒壊率は6〜7割に達し、震源地に近い野田町では居室、小屋など580軒が倒壊しました。三河湾にも津波が押し寄せ、正楽寺（東赤石）や田原郵便局の近くにまで達しました。誇張されている



15 mもの波が押し寄せた高松海岸（写真は現在）

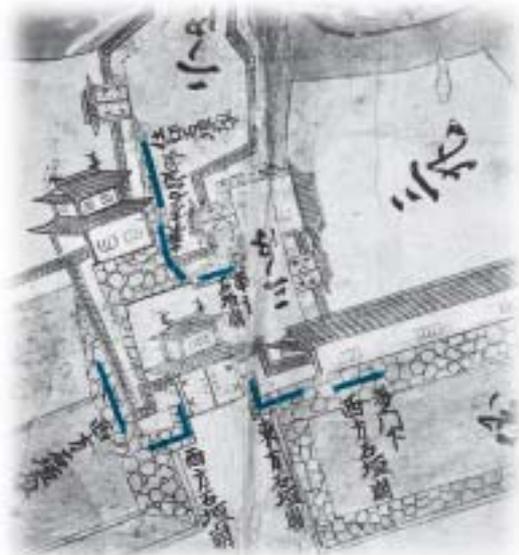


現在は港となった池尻川の河口（写真は現在）

かもしれません。高松町では五丈（15m）もの津波が発生し、低いだけでは波が上がってしまうほどだったようです。

この地震による被害は、関係地域で倒壊家屋1万9000棟余り、死者2万8000人ほどであったとい

います。渥美半島では、田原市街地や野田町、池尻町の池尻川周辺の被害が大きかったようです。また、さらに運が悪いことに、地震の恐怖から覚めやらぬ11月23日には富士山の噴火が起こりました。野田町からもその噴火の様子が分かったということです。人々の恐怖



宝永地震の田原城修理の絵図の一部（青線が損壊部分）

は計り知れなかったことでしょう。宝永の地震は田原城にも被害を及ぼしました。破損の箇所は安政2年の地震と並び多く、田原城の石垣や土塁の多くが崩れ落ちました。権威の象徴である城の惨状を見たとき、人々はこのような気持ちだったのでしょうか。

ところで、この地震の規模はどれくらいだったのでしょうか。地震研究家の宇佐美龍夫さんは、江戸時代の家屋倒壊率と、地震の様子の記述内容から震度を推定する方法を考えました。その推定方法によると、この地震は震度6〜7くらいの規模であったようです。（増山）

生涯学習課 ☎ 23局35331